

「1日保育士体験」の意義

「親心を育む会」編

1. 保護者にとっての意義

- ◎ 「親心を育む」効果
- ◎ 「ワークライフバランス」効果＝父親の育児参加啓発
- ◎ わが子が日中過ごす環境を自ら体験することによって、
保育に対する理解が深まる＝親の子育て責任義務の
遂行
- ◎ 他の園児（幼児）と1日触れ合うことにより、子ども
の多様性や成長過程への理解が生まれる＝子育て不安
の解消（「色々な子どもがいてよい」という考え）
- ◎ 保育者の大変さと大切さが実感できると共に、園への
感謝の心が育まれる＝園と保護者との信頼関係構築

2. 保育園にとっての意義

- ◎ 保育内容が保護者の目に頻繁にさらされるため、結果
的に保育士の資質向上に繋がる
- ◎ 保護者とのコミュニケーションを1日しっかり持つこ
とにより、園児の家庭環境への理解が深まる
- ◎ 昼休み等の時間を利用して、個人面談が行えるのでお
互い理解が深まる

「1日保育士体験」年間の流れモデル

「親心を育む会」編

実施時期	内 容	ポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月入園前 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園説明会等にて「1日保育士体験」の告知（対新入園児保護者） ・ 入園のしおり等でも告知(対全保護者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内保育士の『1日保育士体験』についての理解も統一しておく
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園して落ち着いた頃（5月下旬～） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「1日保育士体験」のご案内配布 ・ 「1日保育士体験」日程設定（対全保護者） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各保護者の日程設定は、基本的には保護者に任せる（より参加しやすくするため）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日程設定決定後 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「1日保育士体験」開始（対全保護者） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験してもらった保護者には必ずアンケートを書いてもらう
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「1日保育士体験」保護者アンケート集を保護者に配布(対全保護者) ・ 来年度の告知(対継続入所児保護者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想の共有を行うことによって、保護者の体験をより深いものにする ・ 年度が替わるとクラスや保育内容にも変化があるので毎年の参加を引き続き呼びかける。

保護者各位

平成〇年〇月〇日

いろは保育園 園長 いろは ほへと

1日保育士体験のご案内

平素は、皆様のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

現在、子育て支援としての対応が各方面においてなされていますが、その一つとして「親心」の大切さが、重要視されています。このことから、今後保育園の取組みの中で、保護者の皆様全員に「1日保育士体験」をしていただくことになりました。1日保育士となって、子どもと接し、子どもたちをみてみませんか。お忙しい毎日と存じますが、保育園とのかかわりや子どもに対する相互理解を深めるため、ご協力の程よろしく願いいたします。

目 的： 保育園における子どもの活動を見ることで、自らが保育士としての体験を通して子育てに対する幸せと、親としての役割を実感する。

内 容： 子どもと一緒に遊ぶ・保育士の手伝い

日 時： 土・日・祭日・行事以外の日

8：30～16：30

※ 半日ではなく1日可能な日をご指定ください

※ 各クラス、1日1名の参加限定です

※ 夫婦参加希望の場合はご相談ください

※ 携帯・カメラ等の使用は保育の妨げとなりますのでお控えください。

申込方法：各クラスで掲示した年間行事予定表に名前をお書きください

☆保護者アンケートより抜粋

- ・紙芝居を子どもに家で読んであげると、たくさんの子どもの前で読むのでは、今日のほうが緊張しました。1日保育参加に来てとても良かった
- ・子どもの1日の様子を見る事が出来て、とても良かったです。集団行動を小さいなりにやっている、それなりに皆にあわせて一日過ごしているのがみられてほっとしました。
- ・本人に生活習慣を学ばせるのは、すごく難しくて、保育士の先生の手法がとても勉強になりました。お洋服のお着替えも、あのくらい出来るんだと感動しました。それにしても先生はすごい！と、息子のときもそうでしたが、改めて感じ、感謝いたしました。
- ・とにかくエネルギーにあふれていて、パワーに圧倒されてしまいました。先生は本当に大変ですね。すごい！！と改めて感謝しました。保育参加できてとても良かったです。読み聞かせはもっと子どもたちの表情を見ながらやればよかったです。
- ・たくさんの子がいて、個性もさまざまで、保育するのはとても大変ですね。先生方の姿を見て、これからわが子とのかかわり方もこうしたらいいかな、とかいろいろ考えさせていただきました。
- ・保育士の先生方の日々のご苦労を実感しました。わが子の躰だけでも毎日疲労してしまうのに、多くの子どもたちに囲まれつつも、教育と安全

と、調和を考慮しながらの保育の姿に頭が下がる思いと、紙芝居を読むことが、会社で上司や同僚たちの前で言うプレゼンより緊張するのだなと驚きました。

- ・最初は皆と仲良くできるか不安でしたが、子どもが好きなので皆に『〇〇くんのママ〜』って逆にかまってもらって嬉しかったです。

- ・平日は朝早くから夕方遅くまでお願いしており、忙しくしているので先生方の顔すら良く分からなかったのですが、今回の一日体験で園の中の様子や先生方も良く知ることが出来ました。とても良かったと思います。

- ・保育園での生活リズム・お友達の顔・お散歩コース等々、今まで知らなかったことをたくさん知れて、いい勉強になりました。保育体験をするまでは不安で一杯でしたが、子どもたちが楽しく接してくれ、楽しい一日を過ごせました。でもやっぱり先生方の仕事は大変だなあと改めて思いました。感謝、感謝です…。参加してよかったです。ありがとうございました。

- ・一日楽しく過ごさせていただきました。先生方の大変さを改めて感じました。次回はぜひ主人(パパ)にも体験させてあげたいです。一日ありがとうございました。

- ・今後もぜひ親に保育園へ来る機会を与えてください。日頃の先生方のケアが大変なことを親が知るべきであり、お互い歩み寄って協力できたらとても良いと思います。

・保育参観だけでは見られないことや、運動会の準備にも参加でき、良い体験をさせていただきました。年に1度このような経験をするのは子どもにとっても親にとっても子育ての上でプラスになると思います。子どもも喜んでくれました。

・また来年もこのような保育体験を行ってもらい、ぜひ参加したいと思います。

・考えていたよりもずっと保育の内容が盛りだくさんで、楽しませていただきました。お手洗いがとてもきれいで子供向けなところがよいと思います。何よりも保育士の方々の日々の大変さがとても良く分かりました。ぜひまた来年も計画していただきたい行事です。

「1日保育体験」実施園による、困ったときの対処法

「親心を育む会」編

《親からの疑問編》

その1：「仕事が休めないのに、普段送り迎えをしている祖父母に体験してもらうのでもいいですか？」

対処例：「今回は親心を再確認していただく意味で行っております。是非お父さんお母さんの参加をお願いいたします」と丁寧をお願い。

その2：「どうしても仕事が休めないのですが…」

対処例：基本的には根気よく、説得。また他の親の名前が書き込まれた年間予定表を提示するだけでも、焦りを感じるらしく、意外と全親の予定が決まる。また体験が始まると子どもたちが、自分の親に「いつ来てくれるのか？」と聞き出すので、それも後押しとなっている。

「お子さんも楽しみにしていますよ」とこちらからのプラスの声かけを忘れない。しかし、親の疾病状況や入院等やむを得ない場合もあるので、園も園児の家庭状況を十分吟味する必要がある。

その3：「どうしても半日しか休めない」

対処例：基本は1日と言うことをご説明し、事情によって半日を2回とか、の融通をする場合もあった。

その4：「園児外の弟妹(大体は赤ちゃん)がいるのですが…」

対処例：おぶったまま体験に臨んでくれた母親もいて、そのとき園児たちは大喜び。また一時保育機能のある園では、一時保育で対応。ボランティア

アに見てもらおうや事務所で預かる等の意見もあり。柔軟に対応。

その5：「職場に『1日保育体験』の話をしてもらえず、ずる休み呼ばわりされたのですが…」

対処例：園からの「『1日保育体験』のご案内」を職場に提示してもらった。また、職場に対して園からもお願い文的なものを提示しても良かったという意見も。

その6：「体験中、仕事場から連絡が来るかもしれないので、携帯電話を使わせてもらいたい」

対処例：携帯電話は事務所で責任を持ってお預かりさせていただき、職場からの緊急連絡も園に直接入れていただいて、親に取り次ぐ形とした。1日休みを取っていらしているので、本当に緊急の場合は職場も園に連絡するのは厭わないだろうということをご理解いただく。携帯の使用は親の体験の集中力をそぐばかりではなく、保育中の出入りは保育にも支障をきたすので、そのところはきちんと説明をし、ご理解いただいた。

その7：「夫婦で同じ日に体験参加をさせてもらいたい」

対処例：これは園の方針にもよるが、同じ日でよいというところもあれば、別々の日に設定して一人ずつというところもあった。

《園側の疑問編》

その1：タバコはどうする

対処例：「全面禁煙施設」の認定を受けているので1日中禁止。という園もあ

れば、昼休みに園敷地外に出てなら可というところも。もしくは園の敷地から出るのは不可なので 1 日禁煙という施設も。意外と親も我慢ができるようである。

その 2 : 子どもが親にべったりしてしまい、保育にならない

対処例 : 無理に引き離すことは無く、くっついているならくっついていてよし。親自身はそんなわが子を情けなく思っている場合もあるので、フォローもする。「いつもは大丈夫ですよ」「他のお子さんの過ごし方を見ていただいて、参考にさせていただければ十分です」など。1 日という時間の中で自然に離れる場合が多い。

その 3 : 他のクラスにいるはずの兄弟姉妹が親にくっついて来てしまった

対処例 : これも無理に子どもをもとのクラスに連れ帰ることなく、そのまま体験してもらった。または子どもを説得して、もとのクラスに連れて行く場面も有。臨機応変に対応。

その 4 : 個人面談は担当保育士と親だけ？

対処例 : これも園でさまざま。全職員と一緒にお茶しながら、とか担当保育士と園長・主任クラスが一緒という園も。

その 5 : 給食は？

対処例 : 親にも給食を供する。費用も親負担で徴収。

その 6 : どこまで保育体験をしてもらうのか

対処例 : これも園でさまざま。敷地内に一日いてくれるだけでいい、という園

や実習生クラスのお手伝いをお願いする園等。共通点はどの園も親に絵本の読み聞かせをお願いしていること。多数の幼児に絵本を聞いてもらえる体験は親にとっても大きな意味があるようだ。

その7：園行事と重なった場合には？

対処例：園行事の規模にもよるが、お誕生会や月恒例の行事レベルだと体験日に入れている園もあり。園外保育（スイミング教室などの外部施設での保育）の日も設定し、親の目で見てもらったり、一緒にプールに入ってもらったりもしている園も。逆に行事の日は体験を入れない場合や大きな行事前1週間は体験を受け入れないという園もある。

その8：名札やエプロンは？

対処例：名札は園から支給。ひらがなフルネームで書いてもらう園も。エプロンは自前、又は園支給のエプロン、職員と色違いを用意しているところもあった。

☆ 実施園からは、やると決まると、親の抵抗感は思っていたより少なかったという感想がでる。実際、親も「いい親になりたい」「いい親だと思われたい」という気持ちはあるので、多少ぶつぶつは言っても、結果的には参加してくれている。仕事を楯に取る人が多いかなとも懸念した園もあったが、こちらが拍子抜けするくらい、体験日が決定していった感がある。

まとめ

現場で日々保育に携わっている先生方が、『今の親が変わってきた』と感じ始めてから、早20年たちました。昨今では「モンスターペアレンツ」という名称も聞かれ、ますます今の「親と子」そして保育・教育現場との間に得体の知れない何かが横たわっている気がします。

私たちは、この得体の知れない何かについて探っているうちに、ある可能性にたどり着きました。まず一つは、『親心』の喪失。『親』が親として育っていくシステムがうまく機能していないのではないか。もう一つは、親と保育現場が一緒に一人の子どもを育てていく、という一体感がなくなってきているのではないか、と考えてみたのです。

一体感がなくなるということは、相互理解が減ります。相互理解が減るということは、お互い疑心暗鬼に陥りやすい、という悪循環を招きます。親は保育に対しての不平・不満や要求があり、保育する側も親に対して伝わらないもどかしさを日々感じている。

実は一人のお子さんをお預かりして、保育するということはとても大変で楽しい仕事です。が、その大変さと楽しさは外からはうかがい知れない。親は子育ての大変さと楽しさを『預ける』ことによって味わうことができないとも考えられます。親は子によってのみ、親として育てられるわけですから、この機会を積極的につないでいくことも保育には必要なことではないでしょうか。

そこで提案したいのが「一日保育士体験」です。これは、実際にやっている園の話を聞いていくとわかるのですが、非常に『親』に気付きをもたらします。わが子の集団の中での成長を目の当たりにす

ると同時に、多数の子どもを保育する現場の大変さも味わうわけです。毎日こんなに大変な思いをして保育をしてくれている、それに気付くとそこに感謝が生まれます。この感謝は現場保育士にとって、やりがいとなります。

保育側からしても、1日という時間、一人の親に向き合うと、その親に親しみを覚えます。いままで、挨拶と伝言程度だった会話が、人間同士の会話としてより温かみを帯びてくる。親と保育現場の相互理解がぐっと深まるのです。

働いているとはいえ、預かっている子どもの親はその親しかいないのです。『親』を親らしくするためにもこの「一日保育士体験」は大切な役割を果たすはずです。

お母さんが体験したら「お父さんもどうですか？」と声をかける。お父さんが来たら「お母さんもぜひ」と声をかける。夫婦が別々の日に体験することにより、夫婦の会話も深まります。

また、保育士体験で感じたことを、親たちが共有することもとても大切です。感想文を園だよりに掲載してみるのもいいでしょう。その日の体験を写真入りで掲示板に貼り出す園もあります。実感が伝わって、楽しそうだな、私もやってみようか、という気になります。

